

学習課題(中学校1年生)



【国語】

<学習内容>

○教科書「いろは歌」(P154～155)、「古典の世界」(P156～157)「蓬萊の玉の枝-『竹取物語』から」(P158～167)を読んで、古典の世界に親しもう。また、「いろは歌」「竹取物語」を繰り返し音読して、古文を読み慣れよう。さらに、古典の文章を読んで興味や関心をもったことをまとめよう。

<取り組み方>

- (1) 教科書「いろは歌」(P140～141)を音読しよう。
 - ・教科書の上段の原文は、ひらがなをそのまま読んでみましょう。
 - ・中段は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣い(カタカナで書かれているもの)に直して注意して読んでみましょう。10回は音読してみましょう。
 - ・下段の現代語訳はそのまま読んでみましょう。
 - ・注釈、出典についてもしっかり読みましょう。
- (2) 家の人に「いろは歌」の音読を発表してみよう。
- (3) 「古典の世界」(P140～141)を読んで、中学校3年間で学ぶ古典のイメージをもとう。
- (4) 教科書「蓬萊の玉の枝-『竹取物語』から」(P158～164)を音読しよう。
 - ・歴史的仮名遣いにも注意しながら、声に出してしっかり読みましょう。
 - ・注釈、出典についてもしっかり読みましょう。
- (5) 家の人に「竹取物語」の冒頭(P158)の音読を発表してみよう。
 - ・暗唱できる人は取り組んでみましょう。
- (6) 現代語訳や古文(P160～161・164)を読んで、現代の文章と古典の文章で異なる部分を確認しよう。
 - ・「仮名遣い」「文末の違い」「古語と現代語」などについて、確かめてみましょう。
- (7) 「竹取物語」のあらすじを簡単にまとめよう。
 - ※誰が、何をどのようにしたかが分かるようにして書きましょう。箇条書きで書いても構いません。
 - ※「くらもちの皇子」の失敗談以外にも、P166～167に紹介されている他の貴公子たちの失敗談も読んでおこう。
- (8) 古典の文章や説明の文章を読んで、興味や関心をもったことなど、

気付いたことをまとめてみよう。

・思ったことや気付いたことをたくさん書き出してみよう。箇条書きで書き出しても、文章でまとめても、どちらでもよいです。自分に合った方法で取り組んでみましょう。

※(1)～(8)に取り組む中で気付いたことや考えたことについて、取組シートに記録しておこう。

※(2)(5)について、家の人に発表するのが、どうしても難しい場合は、目の前に家の人があると想像して、声に出して発表するということでもかまいません。

<学習のヒント>

(1) 黙読ではなく、声に出してしっかり読みましょう。古文は声に出して読んだ方が慣れていきます。

(2) 古典の仮名遣いについては、教科書 P169 に紹介されていますので、確認しておこう。

☆「竹取物語」の原文を読むと、絵本や映像の作品では原文と変えている場合があることに気付きます。家に絵本がある人は確かめてみるとおもしろいかもしれません。

(例) かぐや姫が最初に発見されたときに、光っていた竹の位置はどうでしょうか。
原文では、根元が光っています。